
研究者の神鎗君

即席兵器

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

研究者の神鎗君

【Nコード】

N2868S

【作者名】

即席兵器

【あらすじ】

いつも教授作の新兵器に実験台にされていた彼が神様の書類ミスでお亡くなり（テンプレ）
そんな彼がIS世界でベクトルがずれながらも頑張る予定のお話

誤字脱字などの指摘を感想欄でしていただけると非常にありがたいです。

是非、些細な間違いでも報告してください。

転生（前書き）

作者に感想という名の燃料を投下していただけるとありがたいです。誤字脱字指摘、改善案等ありましたら多少厳しくても構いませんので感想欄にご報告ください。

転生

やあ、俺が誰かは置いて・・・今現在、主人公的テンプレな状況の真っ只中、ここはあえての現実逃避・・・

「ここはどこだ？・・・うんお約束的に言っちまうと知らない天井だ・・・」

ああ、俺の頭がついにぶっ壊れたか・・・楽しい人生だった、うむ、悔いは無いっことは無いが諦めた、うん。

「いやいや、待つんじゃない。というか、ここ天井ないぞい。ひろくがるゝのはそらゝじゃ！あれ？よく考えたらソラでも無かったわい。」

あああ幻聴が聞こえるよ、あつホームレスの爺さんの幻覚まで見えるよ。父さん・・・母さん・・・マジでごめん・・・あなた方の息子は頭がパー「いや幻聴でもなければ幻覚でもないぞい！」って幻聴のくせになまいきにも口答えしやがった！

「うるせえ！俺の幻聴幻覚のくせに俺に口答えするなよ！それよか俺の心を読むな！てか、見せるならホームレス爺さんじゃなくて美人さんもってこい！」

「ひどいつ！？まさかのリコールとな！それよか俺は幻聴じゃないのじゃ！儂、神様、全知全能、運命、因果律、絶対意思、概念存在、ようは最高最強！すなわち心を読むとか朝飯前じゃ、解る！？OK！？？」

……ありえん（笑）

「んなわけあるか、つていうかあつてたまるか！どこのホームレスの爺さんの恰好した神様なんてねえよ！ゼウスとか天照とか仏とかの神様らしい神様に謝れ！もう、全力で！そして女神様系の方に change！」

「だからこれでも神じゃつて……それに、ゼウス君なんかより儂の方がはるかに高位の神なのに……儂、傷ついた……という訳で慰謝料を要求する！」

こいつ、きたねえ上げつねえ。当然回答は却下だつ。

「拒否する！それにだ、ホームレスの爺さんの恰好した奴の方が高位とかありえねえ、いやそれよか大前提が間違っている、すなわちお前が神とか認めない！……つていうかこの程度の言葉で傷つくとかメンタル弱え弱すぎる……つて、ん？よく考えたら俺の幻聴幻覚「だから幻覚じゃないぞい」嫌い、なんだから俺の精神ベースがあるわ「だから儂」ちよつと黙れ、な？「はい……」ある訳で弱くてなつてもしようがねえ……のか……？」

まったく爺さん、俺の幻聴幻覚なんだからこつちが喋ってる時ぐらい黙つててくれよ……もはや怒りを通り越して呆れの領域だぞ。

「すみません、ごめんなさい、もうしm……つて待つんじゃないんで儂こんなに弱気に！？も、もう証拠を見せるから信じてくれい！そして儂を責めるのやめて！」

神様の証拠映像・過去に起きたこと・始まり

ザザッザッザッザザザザ

箱舟大学別館先進兵装開発学部教授室

「うむ、ちゃんと単位は足りているから明日でお前も大学院を卒業か・・・よくぞ頑張った、褒めておこう。(チッ)」

「舌打ちしやがった!? く、くそう・・・まあ、とにかくマジで長かったな。大学生活8年間・・・楽しかったような、辛かったような、馬車馬のように働かされたような・・・って働かされた記憶がほとんどなんですが・・・それにしても最初の講座選択間違っって「先進兵装開発学部」なんてどう考えても怪しさ全開な所に入っちゃまった時は、人生の終わりかと思っただぜ。第一、なんだよ先進兵装って! てな。」

「ほう、お前はあそこが嫌だったと? 私がいる前でそんなことを言うとはいい度胸だなあ、おい・・・そうだな、ちょうど新型のパイロンカーが完成して未実験だったなあ・・・喜べ、実験台にしてやる。」

「だ、誰が喜ぶか! あんなん喜ぶのは真性のマゾぐらいだっ! とにかく勘弁してくれ、いやしてください! 俺はまだ死にたくねえ、死にたくねえ! っていうかよく考えたら入るのが嫌なんて一言も俺は言っていないぜ! ?」

「ふむ、いま言ったなよし、お前ら! こいつを拘束しだいで起動できるように準備をしておけ。出力は・・・そうだな、回収が面倒になるからはじけ飛ばない程度にしておけ。」

「「「は、ハイ教授！」「」」

「お前ら、裏切ったな！この裏切り者っ！そこは助ける展開d、N
O！」

「すまないっ！だがこうしないと俺たちが・・・（ガクガクガクガク）」

「「ウンウン。オレタチダツテ、マダシニタクナイ。（カタカタカタカタ）」「」

「げほ、げほ、だからって卒業してゆく仲間を普通見捨てるか！？この鬼っ！悪魔っ！外道っ！」

ダツ！（逃亡しようとする音）ガシッ！（結局捕獲される音）

「俺たちが外道なんじゃないだろ！？恐怖政治で支配されてる被害者だ！とにかく、俺たちの明日のためにすまないが人柱になってくれ！多分だが死なない！」

「「ああ、死にはしない・・・はず、たぶん！おそらく！」」

「はず！？たぶん！？ちょ、お前ら、誰でもいいから助けてっ！助けてくれー！」

ズルズルズルズル（拘束されて引きずられる音）

箱舟大学別館実証実験棟

「えー、ここの配線を繋いでこれを組み込んで・・・・・・よし、

準備完了だ。・・・総員退避から五秒後よりカウントをスタートしろ！」

「……りよ、了解！・・・退避完了。カウントスタートします！」

「……3！」

「……2！」

「……1！」

「……0！発射！」

ドゴムツ！（発射音）ボゴムツ！（腹に直撃した音）

「ヒデブツ！？お・・・まえ・・・ら・・・おぼえ・・・てる・・・よ・・・っ！いつ・・・か・・・」

バタッ！（倒れた音）

「ふむ、5mほどしか吹っ飛ばなかったか・・・まだまだ改良せねばなあ。よし、今後の改善点についてだが「……あ、あの教授・・・こいつを先に病室に運んできてでからいいですか？っていうか先に運ばないとだめですよね？主に人道的に。「……む、むう・・・分かった、さっさと病室にそいつを運んで来い。くれぐれも寄り道はするな。帰ってきたら改善点について会議だぞ！」

「……はい！」

「あり？もう十時だ！ 君も早く帰りなよ！泊まり込み組じゃないんでしょ？」

「・・・10時って・・・俺何時間気絶してたんだよ・・・まあ、いいか、生きてるし。」

「ちなみに気絶してたのは昼の10時からだから大体12時間！わお、新記録だよ。おめでとう！」

「嬉くねえ・・・まっとにかく俺は帰りますわ。じゃ、さいなら。」

「さようなら」

さらに場所は変わり帰り道

「まったく・・・ことあるごとにひとを実験台にしゃがって、よく俺死ななかつたな、と冷静に今までを振り返ったら本気で思ったぜ。」

テクテクテクテク（移動中）

「にしても教授が手加減・・・ねえ？正直、いつもやられてる側の俺からすれば・・・！？」

キッキークヤクヤクヤ（トレーラートラックのスリップ音）

「なっ！？」

ドゴーンッ！！（激突音）

「ガハツ・・・ゴフツ・・・く・・・そ・・・明日で卒業・・・っだ・・・
てのに・・・ついて・・・ねえ・・・」

時は進み

「朝のニュースの時間です。キャスターは福田でお送りします。え
ー・・・」

「教授さん、卒業式ですね・・・」

「ああ、あいつで実験できるのも今日で最後か・・・」

「・・・次のニュースです。昨日未明に起きた交通
通事故についてお伝えします。鉄霧山前の丁字路にて人身事故が起
きました。警察の発表によりますと・・・」

「鉄霧山前丁字路って　　の君の家の近くですね」

「ああ、確かあいつの家はそこらへんにあったな。む、このつまみ
は旨いな。」

「ですよね！それおいしいですよね。」

「・・・死者は2名。トラック運転手の山田宗助さん、
箱舟大学在学の　　さん・・・」

「たしかに旨い・・・ってない!?!?」

「え!?!ええ!?!?」

「……………　　さんは今日が大学の卒業式だったらしく若い才能の芽が摘まれてしまったこと、非常に悔やまれます。……………では次のニュースです。」

「……………そんな……………昨日は全身痛いつて言いながらも元気に帰って行ったのに……………」

「まさかつ!? 私がパイルバンカーなんかぶつ放したのがいけなかったのか!? そんなつもりでは……………」

ザザッザザッザザー

神様の証拠映像・過去に起きたこと・終わり

「という訳でお主は死んだのじゃ!そして儂、神様、OK?ゼウス君は儂の部下!OK?OK?」

おい、ふざけんな……………せつかく卒業だったのにこの神(笑)が……………

「てめえ、まさか、自分のミスで俺の寿命が云々なんてテンプレ乙な展開になるようなことしてねえだろうなあ?ああ?」

「申し訳ないのじゃ!全神を代表してこの儂が謝らしてもらおうぞ!本当にもうしわけなち、痛い!舌おもいきり噛んだああ!?」

「なにやってんだこの神(笑)は……………」

「と、とにかく申し訳なかったのじゃ……………作業中に間違っつて寿命

を設定してしまつてのう……誰も気づかずにそのまま決済……結果こうなつたのじゃ。」

はいはい、テンプレテンプレ。いやあ、マジげんな！

「人の人生なんだと思つてんだ！ふざげんな今すぐ生き返らせろ！」

「……残念ながら無理なのじゃ……もつ」

「もつ？もつなんだ？」

「お主の死体は火葬済みななのじゃ……ようは灰になっておるのじやよ……」

「は！？灰いい！？え、ちよつと待て、早すぎるだろう！どう考えても！」

どう考えても異常なスピードだろ！

「ちよつと待て今日は何日だ！？」

「事故が起こつてから2日目じゃ、すなわち死亡確認から1日目じや……さすがに儂もびつくりじゃ。」

つてことは、まさか！

「灰になつたら生き返らせねえつてことか！？」

「……うむ、いやできんことはないが……さすがにいきなり灰が集まつて復活すれば色々、ほれ不味いじゃろう？新しい宗教で

きてしまつぞ?」

なんてこつたい・・・

「・・・だれが火葬を進めたんだよ?はあ・・・なんてこつたい・・・」

「う、うむ。火葬場手配から墓地購入まで、何から何までお主の言う教授と家族が即日即決で進めておつた。専門の業者も真つ青なスピードじゃつたわい。」

「は、はははははは・・・はあ・・・あきらめつか・・・」

「お、お詫びといつてはなんじゃが転生プランを用意したのじゃが、どうじゃ?望みの状態で転生させよう!」

「やっぱりテンプレくまあいい、じゃちよと考えてくるから待つてる。」

「う、うむ。にしても立ち直るの早いのう・・・お主なんでそこまで達観できるのじゃ?」

ああ、やっぱりそこ疑問か・・・

「だって、言つてもしようがないことぐだぐだ言い続けても意味ないだろ?なら前向いて考えるだけだつーの・・・」

「ふむ、そうかの。永遠に行く者には理解できぬことはない感覚じやな。」

時は流れ

「む、できたのか？」

「ああ、こうなった。」

転生世界：

IS

転生後名前：

神鏘 氏久

転生後容姿：

いわゆる細マッチョ系になれる体格。

そこそこに恰好が良い姿。

転生後能力：

暫定IQ500OVER（正しくはERROR）の天才。

某教授の実験に耐えられる強靱な肉体。

能力に耐えるための強靱な精神。

IS操縦能力S適正保持。

「お、お主、結構欲張りじゃのう・・・たしかに望みのとおり言ったが・・・」

「言うな・・・原作イベントに絡みたいんだ。そうなるとこれぐらい無いと原作キャラでもねえと死ぬ・・・うん、マジで死ぬる。」

「まあ、まだまだ許容範囲内じゃからいいのじゃが。うむ、これでOKなんじゃな？」

「おう！変更は無だ。」

転生（後書き）

第零話でした。

誤字脱字、文法的間違いなどの指摘をできればお願いします。

あ、普通に感想もいただけるとうれしいです。

妹と神

うううえええ、ううああ、気分悪い・・・おぼろおおうえええ・・・

「くそうう・・・気分悪い。ここは・・・どこだ？そして・・・俺は誰だ？」

解らない・・・最後に起こった出来事は、えーとたしか神（笑）に・・・はっ！！そうだ俺は転生したんだ！無理言って通させたチート仕様で。

でだ、俺の意識が覚醒しているってこたあ・・・えーと確か神（笑）は六歳で俺の人格が覚醒するって言ってたから・・・

「ということは俺は今6歳ってことか・・・たしかに目線が・・・」

「・・・あれ？にい、どうしたの？さっきからうんぐん唸ってたけど・・・急に『ここは？』とか『だれだ？』とか言うから壊れたのかと思っただよ！もしくは・・・早すぎる中二病？」

！？ちょっと、まってくれ、このさらつと痛いところついてくる鬼のような子は誰だ！？第一、にい？あにい？兄？兄い！？ってことはこの声の主はこの体の妹！？

おそろおそろ、横を見ると小さな女の子が視界に・・・って

「にい、戻ってきてー今ならまだ間に合うよーほら、適切な治療で治るってTVでもやってたからね」

「あー！俺は中二病じゃないっ断じて！ただ、ちょっと、混乱してただけだっ！てかなんだそのTV、いら無すぎる特集だろ！？」

「にゅ！？にいが切れた！？珍しい・・・どしたの？どしたのどしたの？金欠・・・はいつものことか。それに口調も可笑しいよ？」

おおっ・・・顔を近づけるない！この体にとっては妹でも俺からすれば普通？に可愛い幼女だからな？精神衛生上よろしくないからな？それよか、やっぱり狙ってるのか？地味に答えずらい質問なんですか？

「ええい、離れるって！大丈夫だ、問題ない。口調はイメチェンだ！じゃなくて、今日は何日だ？そしてお前は誰だ？」

ええーい！かなり危険な質問というか確認方だが今はこれしか無い！当たって砕ける、だ！

「・・・にい、本気で言ってるの？ということとは頭が壊れちゃったの？あちゃー、どうしょ？（小声で）博士に直してもらおうかな？」

「いや、かなり真剣に聞いてるんだが？っていつか答えは？」

「いやね？そんな常識的なことを本気で聞いてるんでしょ？だからこそ壊れたの？って聞いているの！じゃあ、逆に聞くけど、にいはなんていう『名前』で『何歳』？分かるはずでしょ？ね？それが分からなかったら大変でしょ？」

ああ、くそ、俺は・・・

「俺は、『神鏗月詠』かむさびつくよみで『六歳』だ・・・」

「でしょ？じゃあ、私の名前も思い出したよね？にい。」

「いやそんなこと言われても・・・神（笑）は何も言っていなかったし・・・」

「つて、なんだ？知識が頭にn・・・つてぬぎやああ！頭が痛いっ割れる、まじ割れるつて！Noooooooooo！俺は誰！？ここは何処！？神鏗月詠！？　　！？僕は何処！？そこは誰！？今日日！？あの子！？いてえ！」

「つあつ！があ！のがあらあ！」

くそううう、頭が割れそうだああ・てかあ割れるうう！・・・えほつ、だが、思い出した思い出したぞ俺は！そう、俺は『神鏗月詠』でこいつは・・・

・・・そう、そうだ。

「お前は・・・『神鏗天照』かむさびあまてるそう俺の双子の妹・・・そうだそれだ！そして今日は・・・12月24日！ん？つてちよつと待てええ！なんでかのイエスさんが生まれた前日なんだ！？」

「知らないよ！ちなみに今日が私とにいの誕生日だよっ！」

「それは言われんでも分かっているわ、双子だし！・・・それはそうと天照、ここはまじで何処だ？」

「ええーやっぱりそこからなの？・・・まあ、にいが私のこ
と覚えてるならいいんだけどねっ！えっとね、ここは居候させても
らってる・・・」

居候？・・・やな予感が・・・

「篠ノ之さんのラボだよ！」

やああぱありいかああああ！そんなこったろうと思ってたよ、ち
くしょう！いきなり死亡フラグ！

「やっぱりか！？くそう、そんなはずではっ！」

「？やっぱり中二病？精神科に行った方がいいよ」

「だから違う！俺は正常！S・E・I・Z・Y・O・U！」

「むゝ冗談ですゝ冗談。」

「冗談に聞こえんからな！？偉い人は言いました、「過ぎた冗談は
世界を変える」と、ってこれじゃ良い意味じゃねえか！」

「墓穴？策士、策に溺れる？」

「なあ、お前ホントに六歳！？なんでそんな言葉意味理解したうえ
で知ってるん！？それに毒舌だし、せ俺の精神力は戦う前から0だ
からな？やめてくれ！」

「うん。分かった！」

「うんうん、それでい……って物分り良さすぎだろ!？」

「だってにいの妹ですから!」

……俺の妹? そうですか?

まあそれは性格の問題d……あ! ? もしかして…… (汗)

「天照……もしかして俺らって……いやいや、無いと思うけど……もしかして、だぞ? ……もしかして「一卵性異性双生児」か? まさか無いよな? H A H A H A !」

「うん! そうだよ!」

OH! 当たってほしくないことほど当たる! これが世界の真理「マザーフィーの法則」ってやつか!

そうか、ということとは、だ。神(笑)の作ったこのバグスペックが少なからず、天照にも流れてる可能性が大つてことかあ? ……
…って大問題じゃねえか! ?

それに、生物学の理論上は「一卵性異性双生児」なんてありえない! あの神(偽)「ランクダウンじゃと! ?」なにかしやがったな……
・
有り得るとしたら、……俺らが真性の試験管ベイビーで極小重力化での細胞分裂実験でもやられたか、何千京分の一の確率で起こる分裂異常か、誤認か……

最後であってほしい、いやせめて二番目であってほしい……だが

俺の勘は試験管ベイビー説が有力だと訴えている・・・

「うん、もう考えるのやめだ。もうやめやめ。」

「うんうん。気楽が一番つだよ！」

「原因作つたお前が言つなあああ！」

「ごめんなさいい！」

はっ！神は言っている、説明をしてやる・・・と。待て、なんで神（偽）のくせに上から目線？

『（偽）とか（笑）とかいらんわい！そ、それはそうと。ぬほほほ、どうじゃ？新生活楽しいかの？』「お前なにしてくれた？」（汗）『ええ？「一卵性異性双生児」？現代の生物学根本からひっくり返すようなことしてくれんじゃねえよ！試験管ベイビーとかどんだけ暗い過去だ！それも真性のだぞ！？ラウラのやつとは違って、本当に試験管の中で成長させられたとか・・・俺は某ホムンクルスじゃねえんだ！』

『いや・・・そう言われても・・・ほらお前の言つた条件を普通の子供が満たしたら、気持ち悪いじゃろう？だからこつともと異常な器を弄ろうと・・・スイマセンデシタ。』

「分かつたなら許さ・・・なわけあるか！まだ、これが俺だけだつたなら良かったものの、妹がいる。俺は守つていかなくちやいかねえ！だから、守り切れるだけの力を寄こせ！」

『お、横暴ㄥどつちのほうは横暴かなあ?』スイマセン。分かったのつじや・・・ちよつとした能力というか普通の人間が持たない器官を搭載させて、後、内臓を人間の限界まで効率化しておくのじや。もう、これで勘弁してくれなのじや!給料が無くなるのじや!』

「え?給料制なの?つてかお前高位の神じゃねえの?給料なんで無くなるの?」

『前回の不手際で責任を取る形で自主的に給料99.99%cutなのじや・・・』

「・・・そ、それはご愁傷様。」

『うつう。神だつて厳しいときは厳しいのじやい・・・』

「あまりにも哀れだから、神(偽)から神(笑)に昇格しといてやるよ。」

『元に戻つただけじやい!せめて無印の神にしてくれよあ・・・』

「無理。」

『うつわああああん!』

神は言っている、もう話すことはない・・・と。だからなんで上から目線!?

妹と神（後書き）

第一話でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2868s/>

研究者の神鏗君

2011年10月7日20時50分発行